

山形県・新庄市合同総合防災訓練・しんじょう防災フェスタで 地震保険を周知

～山形県は地震保険の付帯率が東北 6 県で最下位、新庄市は全国平均を下回る～

日本損害保険協会東北支部山形損保会（会長：後藤 圭吾・損害保険ジャパン株式会社、山形支店長）は、10 月 18 日（日）に最上中央公園すぽーていあ他で開催された「令和 8 年度山形県・新庄市合同総合防災訓練」および同時開催の「しんじょう防災フェスタ 2026」に参加し、地震保険の必要性を周知いたしました。

山形県は、地震保険の付帯率が 71.7%と、全国平均（70.8%）は上回っているものの東北 6 県では最も低く、新庄市については 64.3%と、全国平均を下回っています（2025 年度）。山形県内でも、過去に津波被害に見舞われた沿岸部では地震保険の付帯率が高いものの、新庄市のような内陸部では、地震による大きな被害を経験していないこともあり、地震および地震保険に対する感度があまり高くないという実態にあります。

同訓練では、「前日まで降り続いた大雨による地盤の軟弱化と新庄盆地断層帯を震源とする震度 6 強の地震により、新庄市で多くの建物が倒壊するとともに土砂災害や火災が複数箇所が発生したこと」を想定し、消防や医療、自衛隊など多くの関係者が参加しました。また、同時開催の同フェスタでは、ご当地ヒーローの「未来創造戦士 ユメリオン」によるステージショーや、防災に関する様々な体験ブースが設けられ、子ども連れを中心に多くの来場者がありました。

当支部では、①山形県の地震保険付帯率が東北 6 県の中で最下位であること、②水害の補償は火災保険に「水災補償」、自動車保険に「車両保険」を付帯する必要があること、③火災保険金の請求は災害に便乗した悪質な修理業者も存在するためご自身で行うこと、をそれぞれクイズ形式で参加者に呼びかけました。また、家族での来場者には、子ども用の防災クイズも用いて、災害時の身の守り方を学んでもらいました。

参加者からは、「地震保険に加入していない人がこんなにいるなんてびっくりした」「能登や熊本など、いつどこで地震が来るか分からないから備えは大切だと思った」「隠れるところがないときは、カバンで頭を守るようにしたい」等といった声がありました。

当支部では、引続き行政等と連携しつつ、防災意識向上に係る取組みを推進して参ります。



子ども向けのクイズを行う支部職員



ご当地ヒーロー「ユメリオン」もクイズに挑戦